八幡小学校改築基本構想中間説明会 説明動画 文字おこし

スライド2

それでは、八幡小学校の改築基本構想検討状況について説明させていただきます。

スクリーン、又は、お手持ちの資料をご覧ください。右下にページ数が振られていますので、表紙をめくって2ページをご覧ください。

はじめに、昨年度に取りまとめた整備の基本的な考え方をご説明いたします。

1つ目は八幡小学校の全面改築についてです。

八幡小学校は、令和6年度に今後改築する学校として選定されました。校舎棟や屋内運動場棟の老朽化の状況や、将来の学校施設としての教育環境の向上を目的として、校舎棟、屋内運動場棟を全面改築とする方針といたしました。

2つ目は、八幡ファームと呼ばれている学級園の保存です。

八幡小学校の南西角にある、八幡ファームには、戦時中に児童が疎開した縁で贈られた長野県飯田市のリンゴの苗木が植えられ、現在は、児童がクラウドファンディングによって購入したリンゴの新しい苗木が植えられています。伝統を受け継いで、次の世代に発展させることにつながる取組みとして新聞にも掲載されたことがあります。

草花や生き物にふれ合ったり野菜などを栽培したり体験的に学ぶことのできる学習の場として重要である八幡ファームを、保存する方針といたしました。

3つ目は、仮設校舎をつくらないことを基本とした改築です。

仮設校舎を活用した改築工事では、既存校舎から仮設校舎、仮設校舎から新校舎への引っ越し作業が必要になること、仮設校舎利用期間が加わることで新校舎利用開始までの期間が長くなるというデメリットがあります。

既存の校庭部分に新校舎を建設することで、仮設校舎への一時的な引っ越しを無くし、新校舎の利用開始を早めることができます。また、仮設校舎にかかる経費についても削減できる整備計画といたします。

スライド3

続きまして、3ページをご覧ください。整備する施設の規模についてご説明いたします。

まず、小学校の既存の延床面積と整備後の延床面積です。

既存の建物は、全体で4,879㎡です。改築後は、約6,890㎡を想定しています。

改築後の面積は、現在、世田谷区の学校改築において共通のルールとしている「学校施設に係る標準設計仕様書」に基づき、諸室の面積を積み上げて算出しています。

次に、校庭面積ですが、既存の校庭面積は2,380㎡となっています。改築後の校庭面積は、配置計画たたき台のプランにもよりますが、約2,400㎡から2,600㎡となります。

表の下に、コメ印で「建築基準法上の許可を取得する予定です」とありますが、これは、想定規模を満たすには、新しい校舎の高さが、第一種低層住居専用地域に定められた上限である、10mを超えるため、建築基準法に基づく許可の取得に向けて、手続きを行う予定、という意味です。なお、新しい校舎の高さはこの許可を受けた場合、15m程度となります。

スライド4

次に、4ページをご覧ください。

こちらが、現校舎の配置図となります。北側に普通教室棟、西側に屋内運動場棟があり、屋内運動場の南側には八幡ファームと呼んでいる学級園があります。また、南東角にはプールがあります。具体的な改築方法は後ほど説明いたします。

スライド5

続きまして、改築の基本方針（素案）についてご説明いたします。

5ページをご覧ください。

こちらは、基本構想検討委員会の中で、改築の計画を進めていく上での方針をまとめたものです。検討委員会は、学校長、地域及び学校関係者の方々、区の職員で構成されています。この素案は現在八幡小学校に在学している児童の声も聴きながら、検討を深めたものです。

基本方針は全部で5つの柱があります。

1つ目は、「歴史と未来をつなぐ人間性豊かな子どもを育成する学校」です。

伝統と文化を大切にし、思いやりの心をもつ人間性豊かな子ども育てる空間づくりと、多様な授業形態や、学習形態に対応可能な計画とします。

スライド6

6ページをご覧ください。

2つ目は、「学校・家庭・地域がつながり協働し、地域で子どもを育成する学校」です。

ここでは主に、学校・家庭・地域とのつながりについて示しています。学校、家庭、地域の連携や、学年を越えた子どものかかわりやつながりをもてる施設とすることや、周辺環境に配慮した学校づくりをめざします。

スライド7

7ページをご覧ください。

3つ目は、「子どもと地域を守る安心安全な学校」です。

災害時の避難所としての役割を想定した施設づくりや、安全で誰もが使いやすい施設とすることについて書かれています。

スライド8

8ページをご覧ください。

4つ目は、「健康、体力の向上に寄与する学校」です。

可能な限り校庭を広く整形に確保し、自然採光や通風等を取り入れ、木材の活用をはかるなど、心身ともに快適に過ごせる施設とします。

スライド9

9ページをご覧ください。

最後は、「自然とのふれあいを大切にする、環境にやさしい学校」です。

八幡ファームの保全や緑地の整備など子どもたちが自然とふれあい、身近に感じられる施設とするとともに、省エネ、自然エネルギーの活用により環境負荷の低減を図り、その効果を見える化して環境学習の場となる計画とします。

以上の方針をもとに、検討を進めています。

スライド10

続きまして、検討中の配置計画について説明いたします。10ページをご覧ください。校舎配置案として3パターンを、検討委員会において比較検討しています。

大きく分けてA案が東側の線路側に普通教室を設ける案、B案とC案が西側の校庭側に普通教室を設ける案となっています。B案とC案の違いについて、C案は給食室を地下に設けることで校舎をよりコンパクトにまとめ、B案よりも大きい校庭面積を確保する案となっています。

なお、A案、B案は既存給食室を解体する前に新しい給食室が完成し、運用開始します。C案は既存の給食室解体工事着手時から給食室が完成するまでは太子堂調理場という施設からの搬送を想定しており、いずれもお弁当対応は想定しておりません。

スライド 1 1

改めてA案の特徴について説明させていただきます。11ページをご覧ください。こちらは新しい校舎を可能な限りコンパクトに建てる事を目指した案になっています。

普通教室は敷地の南東角の部分を活用して普通教室6室を線路側となる東向きに配置し、逆の校庭側に特別教室を配置しています。それによって校舎全体の幅をコンパクトにできるので、校庭が最も広く確保できる案となる反面、普通教室が線路側に配置されるため、授業の集中度低下が懸念されます。

次に周辺環境への影響ですが、敷地の南東角の部分を活用して建物を建てていることから、南側の近隣住宅への影響が大きい案であると考えています。

続いて工事期間中の特徴ですが、えんじ色の部分、給食室を一期工事の範囲に作っているので、給食を配送に頼る期間を無くことができます。懸念点としては、給食などの車両も東門を利用する想定となるので、児童の動線と交錯する部分だと考えています。

つぎに校舎の環境づくりですが、廊下の両側に教室が配置されますので、校庭や道路に面していない教室の採光・通風は中庭からとる形となります。A案はコンパクトなのでその中庭が最低限しか取れておらず、やや環境の厳しい教室ができる案となっています。

最後は地域開放のしやすさですが、特別教室が校庭側にあるため東門からの地域開放を想定した場合、校舎内を横断していかなければならない為、セキュリティ上の分割が難しい案であると考えております。

スライド 1 2

続きまして、A案の建替えステップについて説明させていただきます。12ページをご覧ください。A案、B案、C案は全て仮設校舎を作리ませんので、建替えの“手順”につきましては同様になっております。

まずステップ1でプールを解体し、ステップ2で空いたスペースに新校舎棟を作ります。A、B、C案、共通ですが、ステップ2では仮校庭が極めて小さく不整形となるため、代替の仮校庭を検討する必要があります。

なお、参考として、校舎建設、校舎解体の工事期間をイメージしたスケジュールをステップ図の下に示しております。詳細な各工事の期間につきましては、設計が進み計画が定まりましたらお知らせいたします。

スライド 1 3

続いて13ページをご覧ください。ステップ3で既存の校舎棟を解体します。このとき新校舎へアクセスするための門が東門のみとなるため、児童と給食搬入車両の動線を分け

ることが困難となります。その後ステップ4では、既存校舎棟を解体して空いたスペースに2期工事として新体育館棟を作ります。

スライド14

続いて14ページをご覧ください。ステップ5で既存体育館棟を解体し、最後のステップ6でグラウンドを整備します。

スライド15

続いてB案の特徴について説明をいたします。15ページをご覧ください。

B案は普通教室を線路側ではなく校庭側に配置するために、校舎の東西方向の幅を大きくした案になります。1期工事では校庭側に5教室しか並べられない為、2期工事で1教室分を追加する計画となっています。よって2期工事が済むまでの期間は、1教室分を中庭に面したワークスペースを普通教室として転用して対応する必要があります。

校庭に関しては、2期に建設する体育館よりも左側に普通教室を配置する必要があるためA案よりは校庭が狭くなりますが、現状の校庭面積よりは広くなる計画です。

続いて周辺環境の項目ですが、敷地南東角部分に校舎を建てない計画としていますので、近隣に対しては配慮されている計画であると考えています。

工事期間中の特徴については敷地南東角部分に、給食車両の入り口を設ける事ができるので、児童と動線を分けることができます。

校舎内の環境づくりにつきましてはA案に比べ中庭を大きく取ることができるので、内側にある教室の環境が向上します。

最後の地域開放については、特別教室棟が東門側になるのでセキュリティ上は区分しやすい計画となります。

スライド16

次にB案の建替えステップについて説明をさせていただきます。16ページをご覧ください。ステップ1と2は先ほどのA案と同様ですが、ステップ1でプールを解体し、ステップ2で空いたスペースに新校舎棟を作ります。

スライド17

続いて17ページをご覧ください。ステップ3で既存の校舎棟を解体しますが、給食搬入車両の出入口を敷地南東角部分に作りますので、児童動線として利用する東門と車両で、

入口を分けることが可能になっています。その後ステップ4では、既存校舎棟を解体して空いたスペースに2期工事として新体育館棟を作ります。東門からアクセスできる昇降口があるため、正門と東門を児童が使えるようになります。

スライド18

続いて18ページをご覧ください。ステップ5で既存体育館棟を解体し、最後のステップ6でグラウンドを整備します。

スライド19

最後に、C案の特徴について説明をいたします。19ページをご覧ください。

C案は、教室の向きや考え方はB案と一緒にですが、1階にあった給食関連室を敷地の高低差がある敷地北東部分を利用して地下に収める提案となっています。その分、B案よりは地上部分の校舎をコンパクトにできる案となっています。その結果校庭に関してはB案より若干広くなる案となっています。

周辺環境への影響についてはB案と同じく、敷地南東角の部分に校舎をつくらないので影響の少ない計画です。

工事中の特徴としては、給食室を2期工事部分に計画している為、2期工事の完成まで、給食を太子堂調理場からの配送に頼らなければならない点が、他の案との違いとなっています。

校舎の環境に関しては、中庭をB案と同程度の大きさを確保できるので、内側にある教室の採光、通風も概ね確保できると考えられます。

地域開放についてもB案と同じくセキュリティ上まとまりのある配置となっています。

スライド20

続いてC案の建替えステップについて説明をさせていただきます。20ページをご覧ください。最後のC案についてもステップ1、2は先ほどのA案B案と同様ですが、ステップ1でプールを解体し、ステップ2で空いたスペースに新校舎棟を作ります。

スライド21

続いて21ページをご覧ください。ステップ3で既存校舎解体工事に入ると給食室がなくなってしまうので、ステップ3から4は太子堂調理場からの受入れが必要になるという点がC案の特徴となっています。その後ステップ4で新体育館棟を作ります。新体育館棟

の地下にある給食室が使えるようになるまで、外部から給食を受入れる必要があります。

スライド 2 2

続いて 2 2 ページをご覧ください。ステップ 5 で既存体育館棟を解体し、最後のステップ 6 でグラウンドを整備します。

スライド 2 3

次に、今後のスケジュールについてご説明いたします。2 3 ページをご覧ください。

ただいま、検討中の配置案をお示ししましたが、今後は、現在受付中のアンケートで頂いたご意見なども踏まえ、検討委員会で基本構想をまとめます。

9 月下旬まで残り 3 回ほど、基本構想の検討委員会を開催し、基本構想案として確定します。

その後、区役所内の調整を行い、意思決定により基本構想を策定し、来年 3 月以降に基本構想の説明会を行います。その後、より具体的な基本設計へと繋げる予定としています。

基本設計後は、実施設計、解体工事、改築工事等と進みます。

現時点では校舎の配置や何階建てか等が未定ですので、具体的な工事スケジュールは基本設計の中で計画します。今回お示ししているスケジュールについては、検討状況によっては変更することがございます。

なお、基本設計の報告や工事前などのタイミングにも、説明会を開催しますので、その際は、事前に改築だより等でご案内いたします。

スライド 2 4

説明は以上となります。ご清聴ありがとうございました。